

学びあい、自ら行動することで生きる力を育てる

副校長 田中 裕司

日中は25度近く気温が上がる日でも朝夕はめっきり寒く、体調管理の難しい時期になりました。ここ数年は様々な感染症が季節に関係なく流行する傾向にあると聞きます。子供たちにとっては、自分の体調を言葉で伝えることはなかなか難しいことです。いつもと違う様子がみられたり、少しでも症状が出たりしているようであれば、検温等早めに確認を行うのが大人の責任ですね。御家庭と学校双方で連携して取り組んでまいりましょう。

10月になり、学校生活も折り返しの時期になりました。4月からの学校生活で学んできたこと、努力して取り組んできたことは、様々な形で表れています。小学部1年生のある児童は、5月頃ごみ捨て係に教員と一緒に取り組んでいましたが、今では着替えが終わるとともにごみ箱を持ち、1階保健室側の「ごみステーション」に自分一人で行けるようになりました。一仕事を終え教室に帰った時の「できました。」という報告にも、自信があふれています。

ある保護者の方がお子さんの学校での様子を見て、自分から取り組んでいる姿に驚いた、という感想を伺いました。私たちは、児童・生徒が「やってみよう」と思い、自分から行動し、成功体験（時には失敗しても考え直して改善する体験）を積み重ねることで、自らに自信をもつ（自己有用感、とも言います）ことにつながると考えています。そのためには、様々な学習活動の中に、子供たちが自ら考え行動したり、試行錯誤したりする場と時間を設けることが大切です。先日行いました授業参観では、そんな学校の取り組みを、三日間で延べ400人近くの保護者、福祉園職員の皆様にご覧いただくことができました。学校生活もいよいよ後半戦、お互いに学びあい、自ら行動できる学習活動を充実させ、「生きる力」を育てていきます。

11月からは「学校評価」が始まります。「学校評価アンケート」の中で、日常の教育活動について、感じていること、考えていること等忌憚ない御意見をいただければと思います。よりよい教育活動の充実に向けて、ともにすすんでまいりましょう。

本校の防災・防犯への取組について

主幹教諭 福永 顕

1月の能登半島地震、8月の日向灘地震など、今年も震度6弱以上の地震が各地で発生しています。被災された方々にお見舞い申し上げます。本校では、毎年4月の始業式前に、新転任者を含めた教職員全員で自衛防災・防犯訓練を実施します。連絡系統や避難経路・避難場所等の確認を通して、「全ての児童・生徒を守り抜く」体制を整えています。そして、児童・生徒は、毎月の避難訓練（8月を除く）を通して、「自助・共助」に必要な防災・防犯への対応力を身に付けていきます。訓練内容も火事や地震、土砂災害や不審者対応など、より実践的な状況を設定して実施しています。訓練終了後には、必ず振り返りを行い、例えば「避難を呼びかける放送がもっと早いとよい」など、課題の改善に取組みます。このように、「計画⇒実施⇒評価⇒改善」を繰り返すことで、どんな場面でも全員が落ち着いて対応できる力を身に付けていきます。

防災・防犯の取組では、保護者や地域の方々との連携も重要です。7月の総合防災訓練や高1宿泊防災訓練の際には、引き渡し訓練を実施しました。御多用の中、参加いただきありがとうございました。また、日野市役所や消防署、警察署などと連携を強化するために、年2回、防災教育推進委員会を開催しています。実際に避難訓練の様子を見てもらい、専門家の視点で訓練に対する指導・助言をいただいています。

こうした取組を通して、本校では、防災・防犯への対応力を高めています。